

第2回国語ワーキンググループの議題

議題 (1)

**小中高等学校の系統性の整理に
関する検討の方向性について**

議題 (2)

**国語科を通じて育成する資質・能力
の在り方・示し方について**

第2回WG以降の議論の進め方イメージ

目標等

(柱書)

(資質・能力の趣旨) について、(学習過程) を通して、次のとおり育成することを目指す

(資質・能力の柱ごとの目標)

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力・人間性等

第2回議題(2)論点 1

※以降も検討予定

(見方・考え方)

(対象) を (教科固有の物事を捉える視点) の視点から捉え、(教科固有の考え方や判断の仕方) すること。

第2回議題(2)論点 2

※以降も検討予定

内容

思考力、判断力、表現力等

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

目的

領域

学習過程

第2回議題(1)論点 2

※以降も検討予定

第2回議題(1)論点 1

※以降も検討予定

知識及び技能

知識及び技能に関する統合的な理解

第3回議題

※以降も検討予定

第2回議題(1)の(論点1)各領域の学習過程の再整理と(論点2)発達段階に応じて扱う話や文章の種類^①の系統性の再整理^②について検討し、次回以降、両者の関係も踏まえて領域間の関連を分かりやすく構造的に示すことにより、「中核的な概念等に基づく内容の一層の構造化」に関する議論の深化につなげる。

議題
(1)

小中高等学校の系統性の整理に関する検討の方向性について

論点1 各領域の学習過程の再整理

論点2 発達段階に応じて扱う話や文章の種類 of 系統性の再整理

論点1 各領域の学習過程の再整理

顕在化している課題

- 〔思考力、判断力、表現力等〕の学習過程が「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」「書くこと」「読むこと」で異なっており、各領域の学習が個別のものとして意識されてしまい、関連付けて学びを深めることが難しい実態が見受けられる

各領域の学習過程
を相互に関連づけて
再整理してはどうか

改善のイメージ

- 「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」「書くこと」「読むこと」に共通する要素・異なる要素が、教師も児童生徒も明確に意識できるようになるのではないか
- 各領域で学ぶ内容が、複数の領域で活用されていくことを促し、資質・能力の概念としての習得や意味理解を含む「深い学び」の実現に繋がるのではないか

論点2 発達段階に応じて扱う話や文章の種類の一貫性の再整理

顕在化している課題

- 各領域の言語活動例の種類を示し方が、3領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）別に整理されており、各活動で扱っている話や文章の種類を関連付けて学びを深めることが難しい実態や、目的を意識せず文章の種類ごとに活動を細分化し指導する実態が見受けられる

言語活動例について、
領域×目的という
二つの観点から
再整理してはどうか

改善のイメージ

- 実社会で話したり書いたりする際の目的を「情報の伝達」「他者の説得」「感動の共有」、聞いたり読んだりする際の目的を「情報の獲得」「他者の主張の吟味」「感動への共感」などに整理する
- 上記の目的と領域を掛け合わせて、話や文章の種類を系統的に示せば、3領域相互の関連が一層明確になり、深い学びの実現に繋がるのではないか

※ 実際には目的を複数有する話や文章の種類も多数あることを踏まえ、新たな整理が教材や実践の制約とならないよう留意する必要がある

※なお、〔知識及び技能〕の事項については、以下の二分類で整理する方向で検討（詳細は次回以降審議）

- **思考・判断・表現の過程で生かし深める〔知識及び技能〕：**
（各領域における思考・判断・表現の過程（学習過程）で繰り返し活用し、その活用の仕方を振り返ることで深い理解に至ることを促す）
- **基盤となる文化的な知識や態度、教養として深める〔知識及び技能〕：**
（国語による理解と表現の基盤となる我が国の言語文化等を直接学習の対象とすることで効果的な学びを促す）

各領域の学習過程の再整理

理解 表現

現行



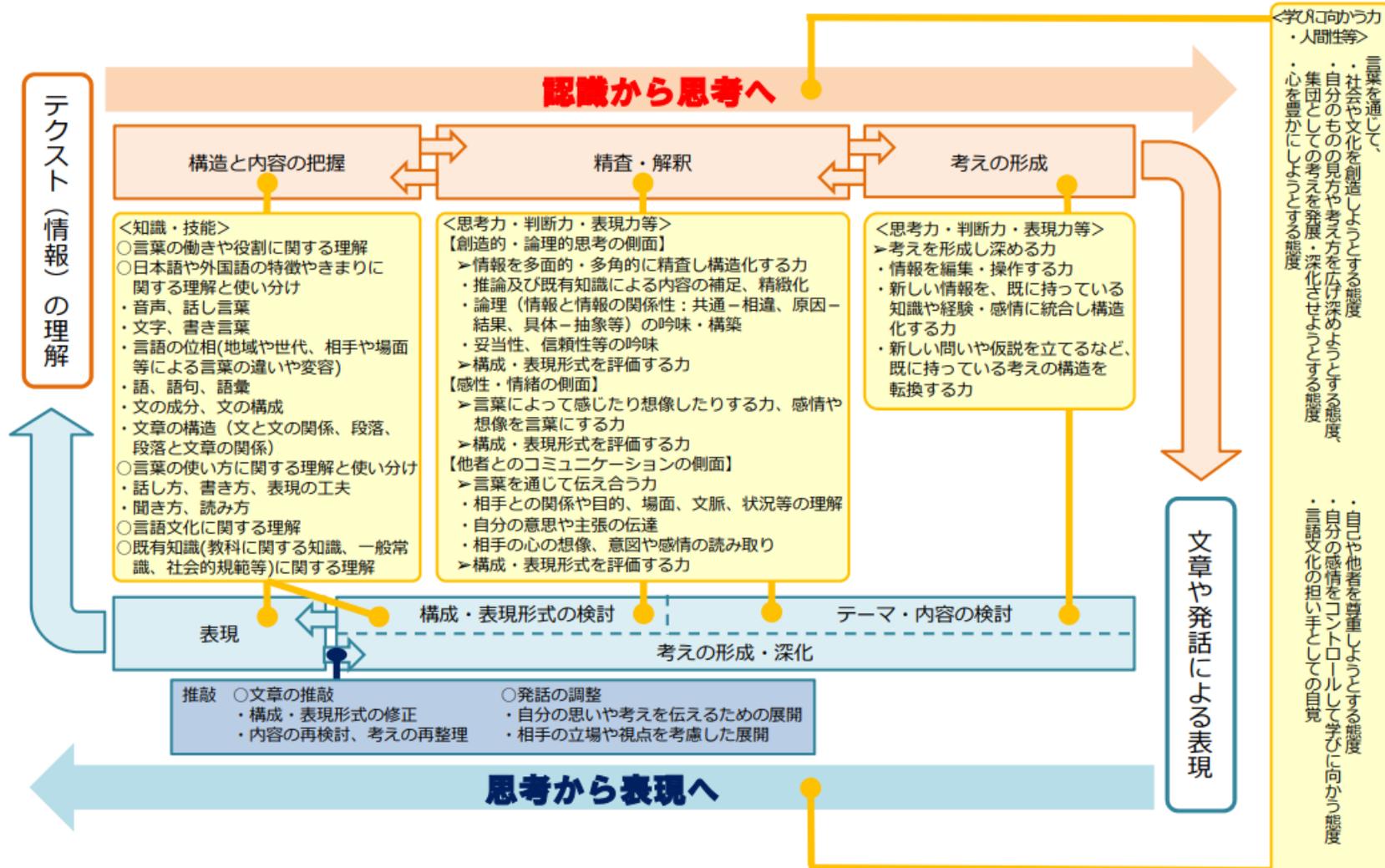
再整理
(たたき台)

領域	読むこと	話すこと・聞くこと			書くこと
		聞くこと	話し合うこと	話すこと	
学習過程	構造と内容の把握	話題の設定	話題の設定	話題の設定	題材の設定
	精査・解釈	情報の収集	情報の収集	情報の収集	情報の収集
	考えの形成	構造と内容の把握	内容の検討	内容の検討	内容の検討
	共有	精査・解釈	話し合いの進め方の検討	構成の検討	構成の検討
		考えの形成	考えの形成	考えの形成	考えの形成
		共有	共有	共有	共有
				表現	推敲
				共有	共有
領域	読むこと	話すこと・聞くこと			書くこと
		聞くこと	話し合うこと	話すこと	
学習過程	構造と内容の理解・ 解釈 ・構造を理解する ・内容を解釈する	構造と内容の理解・ 解釈 ・構造を理解する ・内容を解釈する	考えの形成 ・情報を収集する ・情報を整理する	考えの形成 ・内容を検討する ・構成を検討する	考えの形成 ・内容を検討する ・構成を検討する
	考えの形成 ・内容を評価し熟考する ・形式を評価し熟考する	考えの形成 ・内容を評価し熟考する ・形式を評価し熟考する		表現・推敲 ・発話する ・発話を調整する	表現・推敲 ・記述する ・文章を推敲する

※「言語能力を構成する資質・能力が働く過程のイメージ」（6ページ参照）を参考に、各領域の学習過程を再整理している。

言語能力を構成する資質・能力が働く過程のイメージ

資料2



「教育課程部会 言語能力の向上に関する特別チームにおける審議の取りまとめについて(報告)」
(平成28年8月26日 言語能力の向上に関する特別チーム)

発達段階に応じて扱う話や文章の種類の一貫性 (現行の記載)

現行学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域の(2)で示している言語活動例と、学校段階等に応じて扱う話や文章等の種類の例（概略）

領域	言語活動例の種類	学校段階等に応じて扱う話や文章等の種類の例【※1】			
		小学校		中学校	高等学校（必履修）
		低学年	中・高学年		
話すこと・ 聞くこと	話したり聞いたりする活動（小中高）	紹介や説明、報告など	説明や報告など 意見や提案など	紹介や報告、説明など 提案や主張など	スピーチ、論拠を示した同意、反論 報告や連絡、案内、批評
	話し合う活動（小中高）	（尋ねたり応答したりする活動）	（それぞれの立場から考えを伝え合う話し合い）	互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動など	目的に応じて結論を得たり、多様な考えを引き出したりする議論や討論をする活動
	情報を活用する活動（高）	—	—	—	集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する活動
書くこと	説明的な文章を書く活動（小中） 論理的な文章や実用的な文章を書く活動（高）	経験等の報告や観察の記録などの文章	調べたことの報告や事象の説明などの文章 意見を述べる文章	文章や図表などを引用して説明したり記録したりする文章 意見を述べる文章や批評する文章など	自分の意見や考えを論述する文章 案内文、通知文
	実用的な文章を書く活動（小中） 情報を利用して書く活動（高）	日記や手紙	行事の案内やお礼の文章	行事の案内や報告の文章など 手紙や電子メールなど	報告書、説明資料など
	文学的な文章を書く活動（小中高）	簡単な物語など	詩や物語、短歌や俳句など 感想や自分にとっての意味などをまとめて書く文章	詩、随筆、短歌、俳句、物語など	短歌、俳句、随筆
読むこと	説明的な文章を読む活動（小中） 論理的な文章や実用的な文章を読む活動（高）	事物の仕組みを説明した文章	記録や報告などの文章 説明や解説などの文章	説明や記録、報告や解説、論説や報道などの文章	論理的な文章 実用的な文章 図表等を伴う文章
	文学的な文章を読む活動（小中高）	物語など	詩や物語、伝記など	小説や随筆、詩歌など	随筆、小説、物語 和歌、俳句
	本などから情報を得て活用する活動（小中高）	（図鑑や科学的なことについて書いた本）	（事典や図鑑、新聞など）	実用的な文章など	詩歌や芸能を題材とした文章
話題や題材の範囲【※2】		身近な出来事等	日常生活	日常生活 社会生活	実社会 言語文化の特質に関わりの深いこと

【※1】学校段階等に応じて扱う話や文章等の種類の例は、現行学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域の(2)で示している言語活動例を基に概略のみを示している。
なお、該当する話や文章の種類が示されていない場合は「—」としている。

【※2】「話題や題材の範囲」は、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」で求めている範囲を示している。

発達段階に応じて扱う話や文章の種類の一貫性（再整理のたたき台）

【「実社会における目的に応じた話や文章の種類の一貫性」と「目的の示し方」についてどう考えるか】

思考力、判断力、表現力等を育成する際に扱う話や文章の種類について、学校段階等に応じて系統的に整理（名称等は全て仮称）

目的	領域等	思考力、判断力、表現力等 （概略）【※1】	学校段階等に応じて扱う話や文章等の種類の一貫性（概略）【※2】			
			現行学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域の(2)で示している言語活動例を基に一貫性のみを示している			
			小学校		中学校	高等学校（必履修）
			低学年	中・高学年		
情報の伝達/ 情報の獲得	話す・聞く	<ul style="list-style-type: none"> 説明や解説などをする。 説明や解説などを聞いて自分の考えをもつ。 	紹介や説明、報告など	紹介や報告など	紹介や報告、説明など	報告や連絡、案内、批評
	書く	<ul style="list-style-type: none"> 説明や解説などの文章を書く。 	経験等の報告や観察の記録などの文章	調べたことへの報告や事象の説明などの文章	文章や図表などを引用して説明したり記録したりする文章や報告の文章など	報告書、説明資料、案内文、通知文
	読む	<ul style="list-style-type: none"> 説明や解説などの文章の内容を理解して自分の考えをもつ。 	事物の仕組みを説明した文章	記録や報告、説明や解説などの文章	説明や記録、報告や解説、報道などの文章、実用的な文章	実用的な文章、図表等を伴う文章
他者の説得/ 他者の主張の吟味	話す・聞く	<ul style="list-style-type: none"> 根拠に基づいて主張などを述べる。 主張などを聞いて自分の考えをもつ。 	—	意見や提案など	提案や主張など	主張、論拠を示した同意、反論
	書く	<ul style="list-style-type: none"> 根拠に基づいて主張する文章などを書く。 	—	意見を述べる文章	意見を述べる文章や批評する文章など	自分の意見や考えを論述する文章
	読む	<ul style="list-style-type: none"> 論説などの文章の内容を理解して自分の考えをもつ。 	—	—	論説などの文章	論理的な文章、図表等を伴う文章
感動の共有/ 感動への共感	話す・聞く	<ul style="list-style-type: none"> 経験や思いなどを伝える。 経験や思いなどを聞いて感想をもつ。 	（紹介や報告など）	（報告など）	—	—
	書く	<ul style="list-style-type: none"> 経験や想像したことを基に思いや感動を伝える文章などを書く。 	簡単な物語など	詩や物語、短歌や俳句、感想や自分にとっての意味などをまとめて書く	詩、随筆、短歌、俳句、物語など	短歌、俳句、詩、随筆
	読む	<ul style="list-style-type: none"> 文学的な文章の内容を理解して自分の考えをもつ。 	物語など	詩や物語、伝記など	小説や随筆、詩歌など	随筆、物語、短歌、俳句、詩
合意形成	話し合う	<ul style="list-style-type: none"> 進行を工夫し互いの発言を関連付けて考えをまとめる。 	尋ねたり応答したりする活動	それぞれの立場から考えを伝え合う話し合い	互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動など	目的に応じて結論を得たり、多様な考えを引き出したりする議論や討論をする活動
古典に学ぶ	読む	<ul style="list-style-type: none"> 古典の文章の内容を理解して自分の考えをもつ。 	古典に親しむことを目的として〔知識及び技能〕(3)の事項で扱う。			近世以前の文章 漢文、日本漢文、和歌
話題や題材の範囲			身近な出来事等	日常生活	日常生活 社会生活	実社会 言語文化の特質に関わりの深いこと

【※1】学校段階等に応じてどのような質的な高まりのある資質・能力を育成するかという詳細については、別途検討

【※2】該当する話や文章の種類が現行学習指導要領で示されていない場合は「—」とし、概ね該当すると考えられる話や文章の種類が示されている場合は（ ）で示している

議題
(2)

国語科を通じて育成する資質・能力 の在り方・示し方について

論点 1 総則・評価特別部会における改善の方向性を踏まえた
「目標」の在り方

論点 2 総則・評価特別部会における改善の方向性を踏まえた
「見方・考え方」の在り方

1. 見方・考え方を含む目標の柱書きの示し方と改善の方向性

【現行】各教科等の目標の柱書（例：中学校国語）

言葉による見方・考え方を働かせ（見方・考え方）、言語活動を通して（学習過程）、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力（資質・能力の趣旨）を次のとおり育成することを目指す

【現行の解説】見方・考え方の記述

「対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」

<現行の記述ぶりの課題>

- 現在、各教科等の目標の柱書には、①見方・考え方、②教科に特徴的な活動、③資質・能力の趣旨が記載されており、冗長で分かりにくいとの指摘。一方、特に「見方・考え方」の具体は解説に落とされており、併せて読まないといけない。

<論点整理で示されたこと>

- 論点整理では、「見方・考え方」を、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核に焦点化した上で、その具体を、解説ではなく学習指導要領本体に位置付ける方向性を示している
- また、論点整理では、「見方・考え方」の意義について、「教科固有の様々な世の中を見る視点や考え方が豊かになることで、徐々に資質・能力の育成を導く」といった観点だけでなく、「よりよい社会や幸福な人生に繋げる」とも位置付けており、学校教育のみならず、その後の人生でも豊かに働くことを視野に入れている

分かりやすく、使いやすいを目指す上で

- 特定の学校種・教科で育成したい資質・能力の趣旨等を端的に表す目標の柱書に、卒業後まで視野に入れた見方・考え方まで含めて書き下すと焦点が定まらなくなる
- 目標の柱書は、育成したい資質・能力の趣旨や固有の学習過程を端的に示すべきであり、見方・考え方は、目標直下に別途欄を設け記載してはどうか

2. 1.を踏まえた書きぶり（イメージ）

（目標）

- ● する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、● ● することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
--------	--------------	--------------

（見方・考え方）

- ● （当該教科で扱う事象や対象）を● ● （当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、● ● （当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

（見方・考え方に含まれる要素）

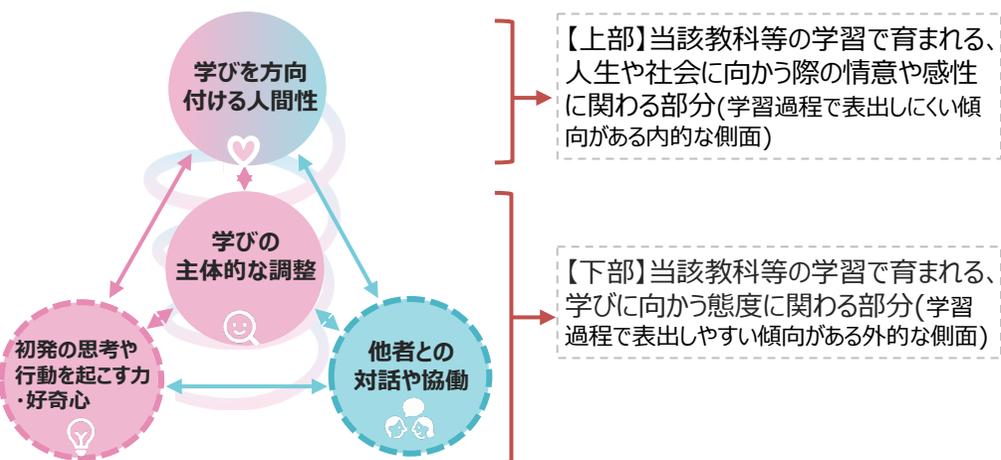
- 見方・考え方については、以下のような要素を含めることを基本に、各教科等の特質に応じて検討してはどうか
 - ① 当該教科等が扱う事象や対象
 - ② 当該教科固有の物事を捉える視点
 - ③ 当該教科固有の考え方や判断の仕方
- これらの要素を示す事により、教師が児童生徒の学習・指導を構想する際に「教科の本質を外していないか」を確かめられるものとなっているかという視点を大切にすることが重要ではないか

（見方・考え方の書きぶりに共通する留意事項）

- これまで各教科等の見方・考え方の書きぶりで示していた各教科等の深まりの鍵を示す部分は、構造化により示す中核的な概念等を通じて示すこととしているため、新たな見方・考え方の書きぶりについては現在よりも短く端的に示すことを基本としてはどうか
- 当該教科等を学ぶ本質的な意義の中核をわかりやすく示す観点からは、経験の浅い教師が読んでも端的に理解可能な記述となっているかという視点を重視して示し方を検討してはどうか（学習・指導を通じて、最終的に児童生徒が意識できるかという点も留意）

1. 論点整理で示された方向性及び企画特別部会での議論

- 論点整理では、「学びに向かう力・人間性等」について、主要な要素や要素間の関係を構造化して分かりやすく示す観点から、下記の4つの要素により整理する方向性が示された
- 企画特別部会における議論の過程では、「学びに向かう力・人間性等」が単によりよい知の獲得に向けた力としてのみ捉えられてはならず、学習したことを踏まえて人生や社会に向かう際の情意・感性に係る側面も重視すべきとの強い意見があった



- また、論点整理では、「学びに向かう力・人間性等」の学習評価に関し、個人内評価を基本とした上で、学びに向かう態度に関わる下部の3要素については、学習評価において、「思考・判断・表現」の過程で特に表出した場合には「○」をつける方向で検討するとされている
- 「学びに向かう力・人間性等」は、学習指導要領の「内容」に原則として記載がなく、学習評価に当たっては教科等の「目標」を踏まえて行うこととなるため、そうした点も踏まえた「目標」の書きぶりが重要

※ 現行、各教科等において育成する「学びに向かう力・人間性等」は、個別の学習内容に応じて異なることが想定されにくいため、原則として各教科等の「目標」水準でのみ記載されている。こうした性質は、今回の論点整理に伴って変わるものではない。

2. 1. を踏まえた目標における書きぶり

- 1. を踏まえると、「学びに向かう力・人間性等」の目標については、全ての要素を個別に盛り込もうとすることで冗長となることを避けつつ、以下の2つの要素をバランス良く含めることとしてはどうか

① 当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度

学びにおいて、好奇心を持って初発の思考や行動を起こし、他者との対話や協働を経ながら、学びを主体的に調整し、次の思考や行動に繋げていく態度について、教科固有の学習過程を踏まえた言葉で示す
(現行の例：自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度（中・理科）)
→ 学びに向かう態度に係る3つの要素を踏まえた見直し

② 当該教科等の学習で育みたい情意・感性

人生や社会との関わりにおいて育みたい情意や感性を示す
(現行の例：自然を愛する心情（小・理科）、明るく豊かな生活を営む態度（中・体育）など)

- 一方、現行でも、複数分野を有する社会科など、多くの内容が盛り込まれ目標の書きぶりが複雑な教科もある中、分かりやすく使いやすい学習指導要領を目指す上では、今回の見直しで一層複雑となることは避ける必要
- こうしたことを踏まえ、目標については、表形式となることも踏まえ、箇条書きも利用して分かりやすく構造化することを可能としてはどうか（この点は知識及び技能、思考力、判断力、表現力等の目標も同様）

論点1 総則・評価特別部会における改善の方向性を踏まえた「目標」の在り方

国語科が直面する課題やこれからの時代に求められる役割を踏まえ、

- 目標の柱書をどのように端的にわかりやすく見直すか
- 「学びに向かう力・人間性等」や「見方・考え方」の新しい整理を踏まえ、国語科における示し方をどのようにするか
- 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」をどう見直すか

論点2 総則・評価特別部会における改善の方向性を踏まえた「見方・考え方」の在り方

激しい変化が止まることのない時代を生きるためには、言葉の背後にある意図や文脈を捉え、自らの思考を深めて表現する力がより求められている。

- こうした力を育む国語科において、国語を学ぶ本質的な意義の中核をなす「見方・考え方」をどう捉え、どう改善できるか

小学校の目標見直し

現行の記載

【小学校学習指導要領】

◎ 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

思考力、判断力、表現力等

日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

学びに向かう力・人間性等

言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

◎ 解説・国語編の「見方・考え方」

「対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」

改善案（現行ベースのたたき台）

✓ 以下は、現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要

◎ 国語科の目標

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力について、実際に聞いたり読んだり、話したり書いたりすることなどを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

思考力、判断力、表現力等

日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

学びに向かう力・人間性等

・国語の大切さを自覚し、国語を尊重する態度を育むとともに、言語感覚を養う④。
・積極的に考えたり感じたりしたことを言葉で伝え合い①、他者との関わりの中で粘り強く取り組み③、言葉がもつよさを認識するとともに、その能力の向上を図る②態度を養う。

※「学びに向かう力、人間性等」の4要素

- ①初発の思考や行動を起こす力・好奇心、②学びの主体的な調整
- ③他者との対話や協働、④学びを方向付ける人間性

◎ 国語科の「見方・考え方」

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、言葉への自覚を高めること。

中学校の目標見直し

現行の記載

【中学校学習指導要領】

◎ 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。	言葉のもつ価値を認識するとともに，言語感覚を豊かにし，我が国の言語文化に関わり，国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

◎ 解説・国語編の「見方・考え方」

「対象と言葉，言葉と言葉との関係を，言葉の意味，働き，使い方等に着目して捉えたり問い直したりして，言葉への自覚を高めること」

改善案（現行ベースのたたき台）

✓ 以下は、現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要

◎ 国語科の目標

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力について，実際に聞いたり読んだり，話したり書いたりすることなどを通して，次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の言語文化に関わり，国語を尊重する態度を育むとともに，言語感覚を豊かにする④。 積極的に考えたり感じたりしたことを言葉で伝え合い①，他者との関わりの中で粘り強く取り組み③，言葉がもつ価値を認識するとともに，その能力の向上を図る②態度を養う。

※「学びに向かう力、人間性等」の4要素

- ①初発の思考や行動を起こす力・好奇心、②学びの主体的な調整
- ③他者との対話や協働、④学びを方向付ける人間性

◎ 国語科の「見方・考え方」

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

対象と言葉，言葉と言葉との関係を，言葉の意味，働き，使い方等に着目して捉え，言葉への自覚を高めること。

現行の記載

【高等学校学習指導要領】

◎ 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

◎ 解説・国語編の「見方・考え方」

「対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」

改善案（現行ベースのたたき台）

✓ 以下は、現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要

◎ 国語科の目標

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力について、実際に聞いたり読んだり、話したり書いたりすることなどを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、国語を尊重する態度を育むとともに、言語感覚を磨く④。 積極的に考えたり感じたりしたことを言葉で伝え合い①、他者との関わりの中で粘り強く取り組み③、言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、その能力の向上を図る②態度を養う。

※「学びに向かう力、人間性等」の4要素

- ①初発の思考や行動を起こす力・好奇心、②学びの主体的な調整
- ③他者との対話や協働、④学びを方向付ける人間性

◎ 国語科の「見方・考え方」

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、言葉への自覚を高めること。

(参考) 現行学習指導要領における「見方・考え方」

言葉による見方・考え方を働かせるとは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。様々な事象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の学習目的としない国語科においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。このため、「言葉による見方・考え方」を働かせることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながる事となる。

「中学校学習指導要領解説 国語編」p.12

国語科は、様々な事物、経験、思い、考え等をどのように言葉で理解し、どのように言葉で表現するか、という言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。言葉による見方・考え方を働かせるとは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。この「対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したり」するとは、言葉で表される話や文章を、意味や働き、使い方などの言葉の様々な側面から総合的に思考・判断し、理解したり表現したりすること、また、その理解や表現について、改めて言葉に着目して吟味することを示したものと言える。

「中学校学習指導要領解説 国語編」p.132

※下線は事務局による。

※小学校及び高等学校の学習指導要領解説にも同様の記載。